

インターネットの通信技術を専門とする私がインターネットに初めて出会ったのは高校を卒業し広島を離れて進学した先の大学だった。今から30年前のことだ。まだ日本には今のようないんターネットは存在せず、一部の研究者だけが利用していたそんな時代だ。その当時、のちに私の恩師となった村井純先生から「一緒にインターネットを日本に普及させよう」と誘われ

想



つちもと やすお
土本 康生

北風と太陽

たことをついこの間のことのよう
に思い出す。
その恩師が常々口にしていた
のが「僕らは太陽になろう」と
いう言葉だ。インッヅ寓話^{うた}「北
風と太陽から得た言葉である。
日本にインターネットを普及さ
せるには、北風が冷たい風を吹
かせるように強制的に使わせる
のではなく、穏やかな日差しで
太陽が旅人のコートを脱がせた
ように世の中の人に望まれるよ
うに広めていくべきだという想^{おも}
いが込められている。この考え
方は私の研究教育活動を進める
上での原則となっている。
県立広島大学大学院経営管理
研究科で新しいビジネスや政策
を考える際、頭に浮かんでくる
のはこの原則だ。北風のような
やり方では人々はついてきてく
れない。世の中を委ねるには「そ
れって良いよね」と人々が自然
に感じてくれるやり方で進めな
ければならないと考えている。
広島県外の例ではあるが、大阪
維新の会が取り組んできた「大
阪都構想」が僅差で否決された
のは北風のようなやり方だった
からではないだろうか。政策の
是非はともかくとして、太陽の
ようなやり方であれば結果は違
っていたかもしれない。
この春、数年前から私が準備
に携わってきた新しい県立の大
学「観啓大学」が広島市内に開
学する。広島や世界を変えられ
る、新しい時代を切り開いてい
ける人材を育てていきたいと考
えている。観啓大学の卒業生に
は、世の中に新しい価値を生み
出して広島や世界を良い方向に
変革させることを期待してい
るが、そのやり方は決して北風の
ようなやり方ではなく、暖かく
穏やかな太陽のようなやり方で
あってほしいと想う。
(県立広島大学大学院准教授)